

平成27年度  
第5回岡山市基本政策審議会  
会議録

日時：平成27年8月25日（火）14：00～16：00

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

## 平成27年度第5回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
あべ 阿部	ひろふみ 宏史	岡山大学理事・副学長（企画・総務担当）
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
かじたに 梶谷	しゅんすけ 俊介	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
こまつ 小松	やすのぶ 泰信	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
こやま 小山	あきら 旭	岡山市連合町内会副会長
しおみ 塩見	まさこ 槿子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻がまいりましたので、ただいまより平成27年度第5回岡山市基本政策審議会を開会いたします。開会にあたりまして越宗会長にご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 はい。台風15号の、若干風雨がありますけれども、そんなに大きな被害と  
いいますか、影響は出ていないようです。その中で委員の皆さんにご出席を賜りまして、  
ありがとうございます。今日は先日20日に開いたばかりですけれども、それに続いての  
開催であります。平成27年度第5回、通算しますと第7回目の審議会ということでご  
ざいます。今日はこれまで過去2回、政策分野別の重点課題等について審議をいただきま  
したけれども、これに関連する3回目、最後の審議ということで、「産業・経済・交流」「歴  
史・文化、スポーツ」「都市経営」の3つの分野について、資料をもとに委員の皆様方に、  
課題の把握は適切であろうか、各分野の優先課題、また長期的な方向性、これはどういう  
考え方を盛り込むべきか、資料としてお作りいただいていますけれども、これでいいのかど  
うかと、そういった視点からいろいろと多角的にご議論をいただきたいと思っております。  
2時間を予定しておりますので、どうぞ、積極的、活発にご意見を賜ればと思います。ど  
うぞよろしく申し上げます。

○事務局（植月） 続きまして本日の委員の皆さまの出席状況ですが、4名の委員の方が  
ご都合によりご欠席でございます。なお基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項  
に規定する委員過半数の出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。  
本日の司会を務めさせていただきます、総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞ、  
よろしく申し上げます。それでは本審議会設置条例第6条第1項により本審議会の議  
事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは手元の会議次第に沿って議事を進めさせていただきますが、議事に  
入ります前に、いつものように傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いします。

○事務局（植月） はい。本日は現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障  
がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、当審議会を公開といたしまして、この後、  
傍聴希望者が来られた場合でも傍聴の許可をいただければと思いますがいかがでしょうか。

○越宗会長 委員の皆さま、特に支障になる事由はないと思われまので、この会議を公開にしたいと思いますがよろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○越宗会長 それでは本日の会議、傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますし、今後そういう方がいらっしゃれば許可ということでよろしくをお願いします。

○事務局（植月） それでは入っていただきます。

### 3 協議事項（1）「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性」について

#### ①産業・経済・交流

○越宗会長 はい。それでは審議会を進めてまいりたいと思います。協議事項（1）の政策分野別の現状と課題・長期的な方向性について協議をしたいと思います。それでは資料の説明を事務局をお願いします。

○事務局（門田） はい、事務局の総合計画課の門田でございます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

お手元に資料1-1から1-3まで3分冊で用意をさせていただいております。まず資料1の「産業・経済・交流」から説明をさせていただきます。表紙をめくっていただきまして1ページ、最初は産業振興でございます。この中の製造業のところから始めさせていただきます。まずは4ページをご覧ください。製造出荷額等の推移ということで、長期的に見ますとどちらかという減少傾向となっております。それからその下でございますが、中小企業の収益向上に向けた課題ということで、高収益企業と低収益企業に分けてアンケートした結果が載っております。一番大きな課題として挙げられているのは新規顧客・販売先の開拓、二番目が優秀な人材の確保、人材育成、三番目が既存顧客・販売先の見直し、四番目が技術開発の拡大ということになっております。このことを踏まえまして、1ページの囲みの中でございますが、販路拡大や技術開発を促し、ひいては優秀な人材確保につながる取り組みが必要というふうに考えております。

続いて商業でございます。5ページをご覧ください。商品販売額の推移ですが、このところ低下しているということでございます。その下の売場面積別にみた事業所数の変化をみますと、個人商店等の小さな店舗は減少傾向にある。それに対して大規模店舗、大型店は増加しているということが読み取れるかと思えます。6ページの上に市内の商店街の歩行者通行量調査の結果をお示ししております。長期的にみますと減少をたどっているということでございます。その下に商店街の空き店舗率の推移が載っております。総じて空

き店舗率が高まっているということでございます。本文のほうに戻ります。2ページの一番上の囲みをご覧ください。商店街を活性化していくためには、各商店街の特徴的な動きを後押しし、新たな消費ニーズを喚起していくことが必要であり、また、遊休不動産の活用も課題であると考えております。

続いて創業でございます。7ページの上の図をご覧ください。開業率の推移です。岡山市は緑でございます、赤が県、全国が青ということで、岡山市の開業率は県、全国と比べて少し高めで推移をしております。2ページの創業の二つ目の丸に戻ります。開業率の経年変動が大きく、安定した創業増加とはなっておりません。こうした中で、高齢化や健康志向の高まりによって市場規模が順調に拡大するヘルスケア分野は有望な市場ではないかと考えています。このため下の囲みにありますように、ヘルスケア分野への支援等、本市の産業振興の方向性として明確に打ち出してはどうかということを考えているところでございます。

続いて雇用でございます。7ページの下段に有効求人倍率の推移をお付けしております。緑がハローワーク岡山でございます、紫が西大寺でございます。特にハローワーク岡山は全国に比べても大変高いということで、地場の中小企業は人材確保に苦慮をしているという状況でございます。8ページの上段でございますが、新規学卒の就職希望者が求める企業情報としては、業務内容、福利厚生、こういったところに関心が高いということが伺えます。2ページの本文に戻ります。雇用の中の囲みの中でございます。市内中小企業の現況は人手不足であり、正規従業員等を確保するためには学卒者等のニーズに合った情報提供、U I J ターンへの対応など中小企業の効果的な情報発信を支援する必要があると考えております。

続いて企業立地でございますが、8ページの下段のハローワーク岡山の職種別求人求職状況をご覧ください。ハローワーク全体では1.64の有効求人倍率となっておりますが、この中で左から二つ目の事務的職業のところを見ていただきますと、求職が求人を大きく上回っております、有効求人倍率が0.41となっております。2ページの一番下の囲みに戻りますが、事務系の雇用等、多様な職種の働く場の確保が必要ではないかと考えております。3ページをご覧ください。岡山市は製造業等の企業用地について年間10件程度の引き合いがございます。しかし、現状では製造業等に適した企業用地の確保は極めて困難な状況になっております。このため岡山県と共同で空港南産業団地の開発に着手するとともに、民有地等の用地確保に引き続き取り組んでいく必要があると考えております。

9ページをご覧ください。以上を踏まえまして産業振興につきましては、地場産業の育成・強化、二つ目として地域資源をいかした戦略的な産業の創出・育成、三つ目として拠点性をいかした企業と人の集積を図っていきたいと考えております。この二つ目につきましては、先ほど申しましたヘルスケア産業の創出・育成を中心に据えた取り組みが進められないかどうかと。三つ目につきましては企業誘致、U I J ターンなどの人材移転の促進、本社機能の誘致などを進めていきたいと考えているところでございます。

10ページからは観光、交流、発信がテーマでございます。まず観光客の誘致ですけれども、岡山市は吉備路、岡山城、後樂園や豊かな食文化など多様な観光資源がございます。ただ広域連携の取り組みが不十分でございまして、テーマ性やストーリー性のある情報発信には至っていないという課題がございます。

また岡山市は西日本の交通結節点として抜群の優位性がありますけれども、一方で人口に対する実宿泊数の割合をみますと、12ページの右上の図でございますが、政令市の中では12位ということでございまして、やや下位ということで、通過都市から脱却できていないのではないかと考えております。このため宿泊客の増加や滞在時間の延長につながる観光資源の創出・情報発信が課題だと考えております。

それから12ページの中段の左側をご覧ください。岡山市の観光イメージに対するアンケート結果でございますが、1位が桃太郎、2位が桃、5位のところにはきびだんごが入っております、桃太郎のイメージが強いということが伺えます。なんですけれども、「桃太郎のまち岡山」を体感できる観光素材が不足しているということで、桃太郎のイメージを活かした素材づくりに取り組む必要があると考えております。

10ページが一番下のところでございますが、外国人観光客、インバウンドでございますけれども、いま官公庁が、東京オリンピックに向けて外国人観光客を増やすための取り組みとして、広域観光周遊ルートというものの取り組みを進めております。平成27年6月に「せとうち・海の道」というのも指定を受けてございまして、その中の拠点地区の一つに岡山・倉敷も入っております。それから表町が全国初の免税商店街となるなど、国内でも先駆けとなる取り組みが現れてきております。

岡山市はこれまで東アジア諸都市などをターゲットとしてきたんですけれども、現在フランス人をはじめとする欧米系の個人観光客が増加しております。その状況が12ページ一番下のところに、左側にももたろう観光センターへの外国人来館者数ということで1位がフランスになっております。右側を見ていただきますと赤い棒グラフ、ヨーロッパが非常に伸びてきている。10ページ一番下の囲みでございますが、こういった訪日外国人観光客の動向を的確に把握・分析して、効果的な施策をさらに講じる必要があると考えております。

11ページをご覧ください。コンベンションの誘致につきましては、主に括弧で囲んだところが、誘致ターゲットの重点化ですとか、大学等の主催者との関係の強化、それから国際会議のキーパーソンとの関係強化、英語スタッフをはじめとする常時受け入れ体制の整備などが課題と考えております。

14ページをご覧ください。以上を踏まえました長期的な考え方でございますが、一つ目としては、広域観光のベース宿泊地となって、外国人観光客にも魅力的な歴史文化都市を目指していきたい。二つ目としては、地元大学等との連携強化などによって、人と知と技術の交流を通じて、国際化を進めるコンベンションシティを目指していきたいと考えております。

続きまして農業振興、15ページに移らせていただきます。下の方に岡山市の農業の特徴というのがございます。干拓地、丘陵地、吉備高原など多彩な地形がありまして、それをいかして果樹、穀物、野菜等、多彩な農業が営まれております。特に白桃、マスカット、ピオーネ等の果物については市場から高い評価を受けていて、都市イメージの一つにもなっております。それから岡山市は大都市でありながら全国有数の農業都市でもありまして、地産地消に適した都市となっております。

それから16ページの上、就農者の状況というところでございます。これにつきましては17ページの一番の上のところに農業就業人口の推移と65歳以上の割合があります。これを見ていただきますと農業人口は減っているのですが、その中で高齢者の占める割合が増えていまして、岡山市はピンク色の折れ線で、72.2%と高齢化が進んでおります。それから、このページの一番下に岡山市の新規就農の状況というのがございます。右側を見ていただきますと新規就農者の推移がございまして、大体毎年新規就農者は20人前後しかいないという状況でございまして。このうち就農サポートセンターを経由した人が、この5年間で28人でございまして。一方で左側の就農サポートセンターの相談者の数を見ますと、この5年間で511人が相談しているということで、相談者のうち就農に至ったのが割合として5%と極めて低くなっているということでございまして。

順番が逆になりましたが、17ページの真ん中の段をご覧ください。経営耕地面積でございまして。赤い線が岡山市の1戸当たりの経営耕地面積ということでございまして、平成12年の0.98haから平成22年の1.17haということで上昇してきておりますが、全国の1.42haと比べると低いということで、担い手への農地集約が課題となっております。それから18ページをご覧ください。真ん中の段に岡山市の耕作放棄地面積の推移というのが載っております。これを見ますと耕作放棄地が増加傾向にあるということでございまして。

16ページの本文のほうに戻りますけれども、真ん中の二つ目の丸でございまして、耕作放棄地の増加に伴いまして、農地の持つ生産機能だけでなく、景観保全であったり、防災、伝統文化の継承、あるいは野生生物の生息地を育むといった意味での、さまざまな機能、そういったものが失われていくのではないかと懸念されております。三つ目の丸ですけれども、農業就業人口の減少によりまして多数の農業水利施設の保全維持管理が困難になりつつあります。このため集落機能の再生強化と農地の集約化が必要だと考えております。

続きまして一番下の市民（消費者）の意識でございまして、これにつきましては18ページの下に地産地消に対する岡山市民の意識という折れ線グラフがございまして。以前もご紹介したかと思いますが、農産物の直売所や産直市を利用している人が7割を超えていると。それから岡山県産の野菜・果物に安全・安心のイメージを持つ人も年々増加してきているということでございまして、こうしたことも踏まえながら、地産地消の取り組みをさらに強化していく必要があると考えております。

19ページをご覧ください。こうしたことを踏まえまして、農業振興の長期的な考え方として、一つ目としては意欲ある農業者による多様な生産の拡大と選択を進めたいと考えております。岡山市農業の牽引役となる意欲ある農業者、頑張る農業者による儲かる農業への取り組みを応援するとともに、農地集約化を応援したいと考えております。二つ目としては、農地を守り、新たな生産を生み出す農村コミュニティの再生・強化を図りたいということで、非農家、週末農業者、定年帰農者など多様な主体によるコミュニティの強化、農地と農業インフラの維持、集落機能の再生強化、このようなことを図っていきたいと考えております。三つ目としては、地産地消で市民が支え、誇れる農村都市づくりを進めたいと考えております。市街地住民や商工業者を岡山市の農業のサポーターに位置付け、地産地消を促進するとともに異業種交流を促進し、新商品の開発や販路開拓・拡大にもつなげていきたい。また、都市と農村の交流を促進していきたいと考えております。

続きまして20ページのところで、国際交流、多文化共生でございます。まず国際交流ですが、22ページが一番上の図をご覧ください。岡山市にはご覧のように八つの友好交流都市・地域がございます。これらの都市・地域との間で、海外からの子どもたちの本市への受け入れや、逆に岡山市の子ども、中学生を海外に派遣する事業が行われております。今後とも行政だけでなく、民間の交流活動をさらに促進することが必要なと考えております。それから、その下に岡山市における外国人人口の推移がございます。これを見ますと青色の韓国、朝鮮、それから肌色の中国、このあたりは減少傾向にございます。一方で、黄色で示したベトナムなど、その他の国のところが増加傾向にあるということでございます。20ページの本文の多文化共生の項目に戻りますけれども、子どもの頃からの国際理解の推進や行政情報の多言語化など、多文化共生のまちづくりを進めていく必要があると考えております。

21ページをご覧ください。上にグローバルに活躍する人材の育成とございます。岡山市の小中学校では、ユネスコスクールをはじめとする国際理解教育を進めております。今後ともグローバルな視野に立って主体的に行動するための基礎を養う教育を行う必要があると考えております。また、世界をリードするESDの取り組みでございますが、ESDに関するユネスコ世界会議が岡山市で開催されまして、公民館を拠点とするESD岡山モデルが高い評価を受けました。ユネスコが策定したESDに関するグローバル・アクション・プログラムの中で、岡山市が地域・地方での取り組み促進分野のキーパートナーに認定をされているということでございます。

こういったことを受けまして、23ページの長期的な考え方をご覧ください。国際的に開かれたまちづくりとグローバル人材の育成を目指していきたいと考えております。特に先ほど言いましたESDに関しましては、一番下の丸でございますが、ユネスコのキーパートナーとして認定されたことを契機として、今後一層海外の都市・地域と一緒にESDを推進する、併せてユネスコ等をはじめとする関係機関と連携しながら国内外のESD優良事例の表彰や、海外のCLCへのESD岡山モデルのノウハウの提供など、世界の先頭



に立って持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。

では資料1-2に移らせていただきます。歴史・文化、スポーツでございます。1ページの文化施設や歴史遺産の活用と郷土への愛着心の項目でございます。四つ目の丸に書いてございますが、市内には城下町、古代吉備の遺跡群、陣屋町、門前町、宿場町など個性ある歴史や文化がございますが、市民が身近に歴史・文化を感じられる機会が少なくなっております。次の五つ目の丸ですが、昨年岡山城などの歴史文化ゾーンにおいて現代アート作品を展示する社会実験を実施しまして、約11万人が来場するなど、新たな魅力の創出につながりました。課題といたしましては矢印の一つ目ですけれども、岡山城とか博物館等の集積を総合的に活用して、体験共感できる空間づくりをするといったこと、そして、それを情報発信していく。そういうことが必要ではないかと考えております。二つ目の矢印ですが、子どもの頃から歴史・文化に触れる機会を増やし、郷土を愛する心を育ていく取り組みが必要と考えております。三つ目ですが、歴史文化資産を地域が主体的に活用していくと、それを支援していくことが必要だと考えております。それから四つ目の矢印ですけれども、歴史文化ゾーンの新たな魅力創出のため、現代アートの芸術祭については内容を充実させながら、継続的に取り組んでいく必要があると考えております。

続いて芸術体験の充実の項目でございますが、一番下の矢印のところにありますように、美術や演劇、音楽等の実物実演を直接体験している市民が少ない傾向があり、生活の中で文化芸術に触れることや、岡山の歴史等を学ぶ機会をどう増やしていくのが課題となっております。2ページの一番上をご覧ください。文化芸術発信のための担い手の育成の項目でございますが、文化芸術施設を地域の文化芸術拠点とするためにも、あるいは国際交流や観光客の誘致などにつなげるためにも担い手の育成が重要な課題になっていると考えております。それから生涯スポーツの環境でございます。成人の週1回以上のスポーツ実施率は平成20年で47.6%に留まっております。それから生涯スポーツ環境の満足度は平成25年度で17.2%と低くなっております。いつでもどこでも気軽にスポーツを楽しむ環境づくりが必要ではないかと考えております。それからトップチームと市民が一体となった活力の創造でございます。岡山市をホームタウンとするトップチームとしては、ファジアーノ岡山、岡山シーガルズがあります。トップチームと市民が一体となって、新たな活力が生み出せるような取り組みが必要だと考えております。最後、大規模スポーツ大会等の誘致の項目でございますが、開催件数は年々増加をしております。今年度からは、おかやまマラソンも開催されます。今後、中四国の交通の結節点という好立地を活かしながら誘致を進めていきたい。特に2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、事前合宿地の誘致といったことにも取り組んでいきたいと考えております。

3ページをご覧ください。政策展開の長期的な考え方ですが、一つ目としては、歴史・文化資産を活かし、新たな文化を創造するまちづくりを進めたいということでございまして、岡山城、後樂園などの歴史文化資源と、現代アートなどの新たな文化芸術の融合によ

り、新たな文化を創造し、国内外へ発信していきたいと考えております。また、地域住民自ら地域の魅力を守り、資産を活用し、未来へ継承する活動を支援し、郷土への誇りと愛着を育むとともに、地域内外の交流につなげていきたいと考えております。二つ目としては、心豊かに暮らし親しむ文化芸術の振興に取り組みたいということで、日常生活の中で文化芸術に触れる機会を増やし、担い手を育成することを通じて、多様で創造的な文化芸術活動を促進するとともに、心豊かな市民が育つことにつなげていきたいと考えております。三つ目につきましては、地域の活力と健康を育むスポーツの振興でございます。岡山市のトップチーム、トップ選手への支援を通じて、市民の一体感の醸成や活力ある都市づくりに寄与するとともに、大規模スポーツ大会の誘致などで地域の活性化を図りたいと考えております。また、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりがさまざまな形でスポーツに親しむことができる環境を実現し、市民の生きがいと健康の増進を図っていきたいと考えております。

資料1-3の都市経営に移らせていただきます。1ページをご覧ください。これまでの行財政改革でございますが、岡山市では新岡山市行財政改革大綱に基づきまして、積極的に行財政改革に取り組んでまいりました。長期計画編で目標値として掲げた経常収支比率、実質公債費比率、それから人件費比率につきましては、表にお示しておりますように平成25年度決算において、前倒しで目標を達成しております、持続可能な経営体質のための改革としての一定の成果が得られたものと考えております。

課題といたしましては下の囲みのところがございますが、今後長期的な視点に立つと、人口減少や高齢化に伴う行政サービスの変容、労働力の減少による人材の希少化など、経営環境が大きく変わることが予想されます。経営資源に限りがある中で、経営環境の変化に対応するためには、これまで以上に市の企画・立案能力を高め、民間活力の活用や官民連携を深めながら、より効率的・効果的な行政サービスの提供体制を整備する必要があると考えております。

2ページの財政状況でございます。真ん中に折れ線グラフがあるかと思います。青い折れ線グラフが経常収支比率でございます、おおむね横ばいなんですけれども、下の表を見ていただきますと、平成22年以降、政令指定都市の比較の中では1位、最も良好な状態ということでございます。赤い折れ線の実質公債費比率とか、緑の将来負担比率を見ていただきますと、年々着実に低下してきております。一方で、この紫の点線で示した基金残高比率を見ますと上昇傾向にございまして、総じて財政指標は着実に改善してきているところです。しかしながら、上から二つ目の丸でございますが、今後社会保障関係経費の増加が見込まれ、また施設の耐震化に加えて、公共施設が大規模な改修・更新の時期を一斉に迎えるということから、財政は予断を許さないと考えております。

3ページをご覧ください。少子高齢化の進展と社会保障関係経費の増大ということでございまして、表に社会保障関係経費を掲載しておりますが、その合計欄を見ていただきますと、平成15年の463億円から平成25年には902億円ということで、約2倍に増

加しております。その中の一般財源は228億円から433億円と約200億円の増加となっております。

4ページのところでございますが、先ほど申し上げたことと重複いたしますが、下側の老朽化施設の改修・更新というところを見ていただきますと、昭和56年以前の旧耐震基準以前のハコモノが約4割あります。今後も使うとすれば耐震化が必要になってくるということでございます。また、建築後30年以上経過した施設が半数を超えております。今後、改修・更新費用の増加が見込まれております。

6ページをご覧ください。課題でございますが、一点目といたしましては、先ほど申しました社会保障関係経費が今後さらに増大することが想定される中で、将来にわたって安定した社会保障施策を実現していくための健全な財政運営が必要だと考えております。二つ目の老朽化施設の改修・更新につきましては、これは計画的な保全により長寿命化を図るなど、財政負担の平準化が必要ではないかと考えております。

7ページをご覧ください。職員数の現状等でございます。棒グラフを見ていただきますと、総職員数は平成19年1月22日の建部町・瀬戸町との合併があった時がピークということで6,390人の職員がおりましたが、平成27年4月には5,317人まで減ってきております。人口当たりの職員数を示したのが下の棒グラフでございます。岡山市は政令市の中では職員数が少ないほうから9番目となっております。8ページをご覧ください。部門別職員数を見ますと政令市の平均、薄い青が岡山市の職員数、濃い青が平均ということでございます。一つひとつは申し上げませんが、見てお分かりのように、その差が大きい部門があるということでございます。女性管理職比率でございますが、一番右に政令市の平均が書いてあり、8.2%になります。岡山市は6.4%ということで、14位に留まっているということでございます。

こうしたことを踏まえまして、課題といたしましては、まず一つ目は政策実現のために限りある人的資源を再配分していくことが必要だと考えております。それから女性が輝くまちづくりの一環として、引き続き女性の登用を進める必要があると考えております。

続きまして9ページをご覧ください。地方分権・大都市制度でございます。その中に岡山市の現状と課題と書いてあります。一つ目の丸にありますように、岡山市は平成21年度に政令指定都市に移行いたしました。今後も指定都市市長会等とも歩調を合わせながら、指定都市への一層の権限・財源の移譲を国に働きかけていく必要があると考えております。また、県との関係につきましては、国の動向の一番上の丸にちょっと書いていますが、平成28年4月からは、指定都市都道府県調整会議が設置されることになっておりまして、今後さらに市と県とが、案件に応じた適切で効率的な役割分担を図って、連携を進めていく必要があると考えております。

続きまして広域連携・地方創生でございますが、岡山市の現状と課題をご覧ください。まず広域連携につきましては、現在、岡山市では8市5町の枠組みで連携中枢都市圏の形成に向けて取り組んでおります。先般、8月20日には、首長による岡山都市圏連携協議

会が設立されました。今後、関係市町と協議を進めて具体的な事業の方向性を見出だしていきたいと考えておりますが、その際、中心都市である岡山市には、拠点性を高め、圏域全体の発展を牽引する役割を担うことが求められているものと認識いたしているところでございます。地方創生でございますが、現在、岡山市まち・ひと・しごと総合戦略を10月末までに前倒しで策定することを目指して取り組んでおります。人口減少と地域経済縮小の克服に向けて、地域経済に人材と資金を呼び込めるよう取り組んでいきたいと考えております。

10ページをご覧ください。長期的な考え方でございます。一つ目は将来世代に責任を持つ自主・自立的な行財政運営を行っていきたいと考えております。まずアの都市の持続的発展を支える改革の推進ですが、PDCAを徹底して収支均衡財政を維持するとともに、官民連携や民間活力の活用の一層の推進などによって、コストを抑制しながら、より質の高い行政サービスを実現するための改革に取り組んでいきたいと考えております。それからイの財政運営の健全性の確保・公共施設の最適化でございます。社会保障関係経費の抑制、行財政改革によるムダの排除、歳入確保、それからPPPなどを活用した施設の複合化、統廃合等の再配置・最適化、こういった取り組みによりまして、将来世代に負担を先送りすることなく、基金残高を一定程度保ちながら、財政運営の健全性を確保していきたいと考えております。ウの政策実現のための体制づくりとしては、先ほど申し上げました、政策実現のための定員の再配置や女性の登用を進めたいと考えております。エの政令指定都市のポテンシャルを発揮する自立したまちにつきましては、先ほど申し上げましたが、地方分権改革の一層の推進に取り組むとともに、県との適切な役割分担や連携を図っていききたいと考えております。

二つ目といたしましては広域的な役割を果たし、圏域をリードする連携の推進を進めていきたいということで、先ほど申しましたように、連携中枢都市圏の形成や地方創生にしっかりと取り組んでいきたいと考えております。説明は以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ただいまの説明で何か委員の皆さんから、もう少しここを聞いておきたいということがありましたら遠慮なく。特にございませんか。それでは、協議事項を順次進めたいと思います。まず1の産業・経済・交流分野についてのご意見を皆さんからいただきたいと思いますが、何名かの方を指名させていただきます。どの分野からでも、産業振興でも、農業振興でも、観光、国際交流、何についてもご意見をおっしゃっていただければと思うんですが、近くにいらっしゃるから、小松委員さん。

○小松委員 専門分野の農業のところで、現状とか、こういうことは結構なんですけれども、ちょっと気になるのが就農サポートセンター、これ立派な取り組みで、5年間に511人相談されたら16ページの文章にも書かれていますし、その裏面17ページの新規就農者の状況ということですが、県がやっているこういう事業では、相談する場合、結構定

着率が高い。それが5%という極めて低いというのがよく分からない。

おそらく岡山市はまだ余裕があるんじゃないかと、農村にもね。限界集落だとかなんとかって、中山間地域や山のほうのところの、なんていうんですか、コミュニティももう形成できないような状況のところとか、背水の陣までいっていないんだろうと、まだ余裕があるんだろうなという気がしています。

ただ、例えば耕作放棄地の話も出ておりましたけれども、以前から耕作放棄されたところをどうするかということをお聞きされておられる。私も意見を求められることがあるんですが、耕作放棄されたところは簡単には戻らない。無理。要はいま耕作されているところが来年も再来年も継続されて、耕作され続けていくためにどうしたらいいかということをお聞きしたら、徐々に営農意欲も高まって、いま耕作放棄されているところも使ってみようかということになるんじゃないだろうかと考えています。

具体的には何なのかということなんですけども、こういう状況の中で、新しい取り組みをあつちかこうだといっても、中々ならないでしょうけれども、やはりこういう新規就農サポートのところで、ここに文面にも書いてありますけれども、意欲のある有能な方々もたくさんおられますので、こういう方々がやはり新規就農をされる方、あるいは検討されている方々に、仲間になる可能性のある人たちということで、やはり技術面でも心の面でも、生活するということに対して非常に心配事があると思いますから、そういうソフト面のケアというものがかなり重要になってくるんじゃないかと考えています。ちょっと長くなりましたが以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。杉山委員さん。

○杉山委員 三つくらいお話をしたいと思います。一つは産業振興のところで、ヘルスケア分野に注力をして、集中して育成をしていきたいということを述べられています。中々全ての産業に目配りや気配りをするのは難しいのは自明の理です。確かに岡山大学・病院とか医学の長い歴史があるので、そういうところに注力をするのは非常にいいことだと思います。行政はステークホルダー全員に公平に対応することが求められますが、ぜひ果敢に選択と集中をやっていただきたいと思います。

二点目は農業政策についてですけれども、農業と観光については基本的に県と一体化すればいいのではないかと考えています。あまり分ける意味がない。実際、農業の職員の方、確か86名でしたか、農業はこんな人数では中々維持とか指導とかは難しい。私自身は農業の専門家ではありませんが、農業は専門的な知識がないとどうにもならない分野だと思います。総論的議論かもしれませんが、全国に先駆けて、県と岡山市の農業部門を一緒にするというのがベストだろうと思います。観光についても、できたら同じような形で進めていくことが一番望ましいのではないかと考えております。

最後に、僕は今まで岡山県知事の方に何度もご提案申し上げましたが、東京で、岡山っ

て何かという調査をすると「桃太郎」、「きびだんご」なんですよ。これはやはり日本の長い歴史の中で、教科書などで取り上げられ、全国の人たちに、岡山には「桃太郎」がいて「きびだんご」があるという形で一般化しています。格別、県とか市が積極的にPRしたからそうなのではなくて、子どもの頃から言い伝えられて、そういう話が残っているわけです。「晴れの国」と「フルーツ」についてはおそらく県が一生懸命PRしたのでそういう結果がでているのでしょう。おそらく自由想起でやると間違いなく「桃太郎」、「きびだんご」がトップに出てきます。かつて知事に対して「桃太郎」を名誉県民にしたかどうかということをご提案しました。岡山市でもぜひお考えていただいて、桃太郎を名誉市民にしていただけないかと思っています。桃太郎は実は架空の人だったのかもしれませんが、これだけ集客力があり、知名度のある人は岡山市にはいません。岡山県にもいない。その功績を称える意味でも桃太郎を名誉市民にするということを考えていただけると、全国に対して明確な発信ができるのではないかなと思います。以上、三点です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。泉副会長。

○泉副会長 2ページのところでですけども、産業振興の一番下側のところに、有効求人倍率の事務系が逆になっている、有効求人倍率は1.64倍であるが事務系は0.41倍ですけども、高齢者が事務職を求めており、かつ求職側はそうではないというミスマッチがあるのではないかなと思うんです。したがって、ここを一生懸命注力して手を打つというのは徒労に属するようなことになるのではないかなと思います。

それから、また後ほど述べたいんですけども、やはり前回の審議会でもありましたように、相当選択と集中をやらないと無理かなという感じがあって、全体とすると杉山先生がおっしゃるように、産業振興の方向性は、ヘルスケア分野、これは絶対やらないといけないと思います。私も大賛成です。それから観光のほうについても、以前確か市長さんもおっしゃったと思うんですけども、岡山城と後樂園が違うなんていうのは、とんでもないという話。延長線上に、いっぱいいろいろな施設があるんですね、点検しますと。統合的な観光行政をやったほうがいいと私は思います。お金もかかりますからね。一番目にはそれだけです。

○越宗会長 国際交流等の面から、片山委員さん、何か。

○片山委員 長期的な考え方としては、国際的に開かれたまちづくりとグローバル人材の育成ということが書いてあります。二つ目の丸でコミュニケーション支援というのがありますが、もしこれが言語ということであれば、外国人の方が生活していくにしても、就職していくにしても、学校に行くにしても、どうしても日本語が必須です。聞くところによりますと、アメリカなどでは移民や外国人市民、多国籍の人たちが多いので、英語を教

育することが大変重要になって、無料でコミュニティごとに英語を学ぶことが簡単にできる場所がたくさんあると聞いております。このようなコミュニケーション支援ということであれば、日本語教育への支援が必要ではないかと思っております。日本語だけというのがまずいのであれば、コミュニケーション支援という形でもいいのですが、ここは日本語教育ということをはっきり出してもいいのではないかと思っております。

それから国際化という場合に、日本人の考える国際化だけではなくて、やはりそこに住んでいる外国人の方たちの本音と申しますか、気持ちを聞いてみなければいけないのではないかと思います。岡山市は岡山市外国人市民会議というのをされています。これは私も議事録などを読ませていただいておりますけれども、大変有意義な会議だと思いますので、きちんと位置づけをして、その提言を聞くということが大事ではないかと思っております。

それから、多文化共生の言葉が出てきていますけれども、私の知人が多文化共生社会に向けて活動したいと、多文化共生センターをNPOで立ち上げようとしているのですが、この方がおっしゃいますには、多文化共生については、たくさんのグループ、NPOを含めて活動している人たちがいるそうなのですが、それが個々、別々の活動になっているので、外国人のネットワークも含め、これを全部まとめてゆるやかにつながるネットワークができれば、もっと力が発揮できるのではないかということで、その方向でやりたいということを知りました。こういった草の根的な活動にも、行政が場の提供等で配慮していただけると大変ありがたいなと思っておりますし、今回の岡山市の方向性として、ネットワークや連携ということに大変力を入れてらっしゃるように思いますので、こういったところとも連携というと大げさですけども、何らかのつながりを持つというのがいいのではないかと思っております。

最後になりますが、ユネスコのESDに関することが、この丸印の最後に出ております。この文章の最後のところに、ESD岡山モデルの提供などで、世界の先頭に立って持続可能な社会の実現に貢献するということが書いてあります。これもちょっとユネスコの方から聞いた話ですが、ユネスコのパリ本部から、岡山は去年のESDの公民館活動で非常に高い評価をいただいたということです。岡山に公認の外郭団体として東南アジアの公民館活動の推進を支援する、そういう団体を作ってはどうかという要請が12年前にあったということを知りました。いまここに書いてあります、この内容そのものなので、12年前の要望に応じて、岡山で公式の事務所というのでしょうか、団体というのでしょうか、支援センターというのでしょうか、そういうのができたらいいなと思います。いまユネスコの公認のものはつくば市と堺市に、目的は違いますが団体は二つあるそうです。日本にはその二つだけしかない。ただ、この問題に関していえば、多分出資金とか、そういったものも結構いるのではないかと。また、国の機関、外務省や文科省とかの力を借りたり、岡山県、岡山市、企業、産官学が力を合わせてやらなければ多分できないものなのだと思います。なかなか難しいのはよく分かるのですが、ただそういう公的なものが岡山にあるということで、ユネスコは世界198カ国にある団体ですので、国際的に開かれたまちに

なり、グローバル人材の育成という長期的な考え方には沿うことになるのではないかと思います、設立の可能性を探れたらいいなと思っております。以上でございます。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。国際交流というのは片山委員さんもされて、国際交流をされている市民団体・民間団体というのはたくさんございますよね。それから長期的な考え方の文言にも連携はあるんですけども、岡山市内はもちろん、大学には留学生がずいぶんたくさん在籍しておりますし、海外の大学や教育機関との友好協定が、ある意味進んでいますし、国際交流ではいろいろなことをなされていらっしゃるし、岡山市自体が友好交流都市・地域が8つあるわけですし、いままでは確かに国際交流というのは行政が主導する時代だったと思うんですけども、そろそろ民間主導に重点を移していてもいいのではないかなと私は思っておるんですけども、ぜひこれから民間の国際交流を行政が支援するという方向にシフトしていくべきではないのかなということをちょっと感じております。ほかの委員さんからも何かございますか。

○塩見委員 観光の面のところなんですけど、広域観光の考え方の中で、これでいいと思うんですけど、一つ追加したいと思っておりますのは、祭り寿司や、白桃、ピオーネ、梨とか、いろいろな果物が岡山は豊かです。そういう食文化の豊かなことも情報発信をしたらと思っていますのでよろしくお願いします。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

○阿部宏史委員 産業振興の件で、基本的な方向性としては、やはり他の地域に対して岡山というのは、どういう分野が優位かということをやまず十分に追求して、その中で、外からの需要を引き込んで、稼いだお金を地域の中で十分循環させていくというのが経済発展の基本ではないかと思っております。ヘルスケア分野、それから医療福祉の分野というのは岡山は強いんだというのは非常によく分かるんですけども、やはりそれがどのくらいの経済発展につながるのか、あるいは他の産業の波及につながっていくのかということ、特に行政としてきちっと分析したうえで、産業振興策を考えていく必要があるんじゃないのかなと思っております。

それから、そういった地域の基幹的な分野の産業が確立されて、その次やはり街中の活性化ということで、それにつながるような、特にそういった産業基盤があっても街中がさびれていると中々地域の中でお金が循環しませんし、それから観光も同じことであって、観光資源として十分にネットワーク化されて活用されておればですね、そういった外からのお金を循環することができますので、そういった仕掛けを総合的に考えていく必要があるんじゃないかなという気がいたします。

それからもう一点、私たちは大学におりまして、常々大学で高度な専門知識を持った学



生を、人材を育成しているんですけども、その行先が地域の中にほとんどないというのが、非常に残念に思っております。特に最近の国立大学ですと大学院レベル、それから博士人材の育成を進めているんですけども、そういった人たちの受け皿になるような企業がない。それから企業がない以上に、企業側の意識もそういった人材に向いていないといったところがありまして、おそらくニーズはあると思うんですけども、そういった人材と地域の企業とのマッチングの仕組みを、もう少し行政とも協力しながらしっかりと考えていく必要がある気がしております。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

○梶谷委員 まとまっていらないんですが、まず一つは、最初の商店街の活性化というところは、何となく商店街の特徴を生かして今までもやってきたと思うんですが、ほとんど成功していない。改めて商店街の魅力は何かというと、アクセスとそこを含めて産業だけじゃなくて都市の構造と絡めて考えていく必要があるんじゃないのかと感じています。やはり基幹産業と同時に、中小企業がいかに活性化するかということが非常に大事だろうと思いますし、そういった中から起業とか新たな創業だとかが生まれてくるので、いかにそういったところで、先ほど大学の人材の行き場がないということでしたけれども、やはり若い人がそういった中小企業として起業ができる、そんな夢が与えられるような中小企業振興策というものをやっていく必要があるのではないかなと。中小企業は夢があるよということを政策としてもっともっと打ち出していく。若い人が中小企業で起業をしてみようとか、それをみんなで支える風土づくりが必要な気がします。

それから本社機能の強化ということですが、本当にどこも本社機能、機能とって引っ張ろうとしているんですが、本当に岡山に来るのかなと。それよりもいまある地場の企業をいかに拡大して行って、それが外に出て行くんじゃなくて岡山にずっと本社機能を残していただけるような方向で考えていくほうがいいんじゃないかなと。それから事務を増やそうということですが、企業側からすると事務というのは比較的付加価値を生みにくい、となると、どちらかというと事務採用は減らして、逆にもっと違う方面で活躍するような人を、人材を育成する面で考えていくほうがいいんじゃないかということを感じました。

それから観光文化、桃太郎のまち岡山の創造・発信ということなんですが、これは本当にそう考えているのかなと感じます。と言いますのも、これは県の問題だと思うんですが、桃太郎アリーナもなくなりました、桃太郎スタジアムもなくなっています。桃太郎、桃太郎と言いながら、非常にいい発信源が全部企業名に変えられているということで、ある意味でいうと、岡山にあるいろんな公的な施設にもっと桃太郎というものを使っていくようなことをやって、岡山に行ったら何でも桃太郎だなというくらいのことをやっていったほうが、桃太郎というのが、みんなが、市民そのものが桃太郎に愛着を持ってくるんじゃないかと感じました。

それからMICE・コンベンションなんですけど、これはやはりワンストップでの窓口の設置が要るんじゃないかなと。先ほど県の施設だとか民間の施設、そして市の施設、それぞれがいろいろあるんですけど、トータルで管理ができない、トータルで手配ができないということで、小さな学会、小さなコンベンションならそれでも何とかできるんですけど、少し大きいものをしようとする、いろんなところに手配がいるということで、そういった意味では統合的に管理する、ワンストップでやれる窓口、その機能の強化がいるんだろうと。

そしてもう一つはスポーツもコンベンションの一つで、ここにも入っていますけれども、学会とスポーツと一つで括るのではなくて、岡山に人を呼び込む機能としては、同列で一体的に考えていくほうがいいのではないかと思いますし、その時にいかにまちそのものが魅力的であるかということからいくと、観光とか文化というところにも繋がってくると。そういったことをやっていくうえで、一つの岡山市の中もまちをどうするか、この地域にどういうふうな特色を持たせるかという考え方もいるのではないかな。岡山市全体の中で、それぞれの地域にどういう特色を持たせていって、ここの地域はまさにスポーツだったら、この地域にしていけばかなりのことができる。そんな大きなゾーニング計画も必要になってくるんじゃないかと感じました。

あと農業でいうと、農業者の数というのは、いまのままで絶対数が足りているのかなということになると、やはり農業者個人と企業をどうタイアップしていくのかという、そのような組織的な農業をどう作っていくのかということが必要になるような気がしています。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。

○小山委員 はい、ありがとうございます。私個人のことで申し訳ないんですが、私、以前は転勤族でございました。各地域に行きまして、私は岡山なんだけども、岡山って知っているかという話をするんですけども、あんまり知られていないんですよ。先ほどの話の中で、また今までの話の中で、岡山の魅力はいっぱいあるじゃないのと審議会でおられます。けども案外全国には伝わっていない。宣伝というかアピールが足りないのかなと思います。

特に今日の審議については、これからの岡山市の本当の前進の一番要になるテーマなんですね。ここをどういうふう施策をつくって、どう運営していくかが、本当に将来の岡山市をどうするかという問題になると思います。その意味では、先ほどの話にもありましたけれども、岡山の、全国のあるいは国外でもいいんですけど、目玉は何なんだろう。それを根本的に大々的に生かしていかないとだめだ。それにはもちろん、食の問題もあるし、あるいは文化、あるいは歴史、歴史に関したら人物に関して入れ込んだ、そういうものが発信できないのかと思います。

それから先ほど、観光というのは大きな前進の根底にあたるんですけども、観光に対し

て、ちょっと言葉は悪いですが、悠遊券的なサポート、岡山に来て観光巡りができる悠遊チケット、といったプランができて、全国にそれを発信できないか。岡山に行ったら、こんな魅力的なところをぐるっとサポートしてくれるんだよということが、できれば観光なんてもっともっと大胆にできるんじゃないかと思います。そのへんのこと、ちょっと気がつきましたので、これから本当に大切な基本になりますので、これから岡山市がどう前進していくかという基礎になりますので、そういう意味では今日の会議が一番大切なところだと思います。一応、ちょっと簡単ですけども、そのことに気がつきましたので、終わります。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

○清板委員 多文化共生社会のところ、これは片山先生がおっしゃられたことと重なるのかもしれないんですが、岡山に住んでいる外国人の方たち、その中には例えば外国人労働者であるとか、技能研修生として、必ずしも強い立場ではなくて住んでいる方たちもたくさんいらっしゃるわけですが、そういう人たちにも、多文化共生の二つ目の丸のところの生活支援のところに入っているのかもしれないんですが、そういう方たちへの支援というのが必要だ、とても大切だと思います。私は1歳児とか新生児とか、乳幼児健診、そういう小さな子どもを持った母親の育児ノウハウの支援をする、カウンセリングをする場面が時々あるんですけども、そういったところで小さな子どもを抱えているんだけど、地元の若い母たちとのコミュニケーションがうまくできないので行き詰っているという外国人の若い方に時に会うことがあります。学校の中でも、外国人の子どもとして日本人の学校に通っている子どもたちも、不登校の不調を扱うことがあります。コミュニケーション支援という視点ではないんですが、そういう教育とか福祉の中に、基本的にはコミュニケーションの問題によって、不調が起きているという方たちへの支援というんでしょうか、ぜひ数は多くないかもしれないんですが、大切にしてほしいと思います。

それから、コンベンションの問題とヘルスケアに関する分野のお話が出ましたが、岡山は岡山大学病院を中心として医療のメッカでもあるわけですが、そういう意味では医療とか保健とか福祉に関するコンベンションを扱う企業、そういったようなものは大変有効なものではないかなと思います。すでにそういった企業があつて、お世話になったりすることもあるのですが、ニーズはとても高いように思います。

雇用に関してですが、商業的な、産業構造の発展とか促進とか、それから販路の拡大のために有能な人材が必要であるということで、有能な若者を採用したいという動きが強いわけですが、産業とか商業構造の発展のためだけに若者の雇用を考えるのではなくて、若者の健康な成熟とか成長とか、そのために円滑な就職とか、社会進出とか、そういったちょっとコペルニクス的な転換をした視点からの、若者の就労、就職、採用を公的に、そういう視点を持って扱うということも必要ではないかと思いました。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。阿部典子委員さん。

○阿部典子委員 まず先ほども話に挙がっている6ページの商店街の活性化というのは、これまでもずっと話に挙がってきたながら、中々難しい部分があるかと思のですが、前回の話にもあったように土地利用の観点からもう少し、ここの商店街は何を強めていくのかというようなところを戦略的に支援できるような、そういう具体的な骨子というものがあればいいのかなと思いました。

農業のところでは、511人の相談があつて、実際に就農に至ったのは28人というのは、これは確かに少ないと思うのですが、この中で就農に至らなかった場合の段階ごとの理由の細やかな分析をしてみると、逆にいうと新しい農業のやり方であるとか、働き方、例えば岡山はそれでも農地が集積できるというか、大規模にできる部分があると思うので、そういう意味でいうと、農業法人に就職するとか、農業法人を作るとか、そういった方法ももう少し考えられるのではないかなど。逆に東京の方面から農業といった場合には、兼業程度の農業のことを考えて来られる方もいらっしゃるかもしれない。そういう方にはもしかしたら、他の大きなスキルがあるかもしれない。そうなった場合、農業とはまた別の職業とかスキルを掛け合わせたら、もしかしたら新しい働き方ができるかもしれない。そういう方が、これから農業も含めて、どんな生活がしたいから岡山に移住するのかという可能性が、もしかしたらこの数字の中に眠っているのかもしれないということを思いました。

実際、私が岡山市内の中山間地的なところに行くと、やはり耕作放棄地であるとか、獣害とか、農地の集積であるとか、そういった課題を本当によく聞くので、その問題は今もあるんだと思うんです。そういう意味でも、まさにいま転換期だと思うので、そのあたりも山間部の農業、それから集積できるところの農業、職業としての農業という、新しい農業者を作るという視点も一つ入れていただけたらなと思いました。

○越宗会長 はい、ありがとうございました。

○塩見委員 商店街の振興のところなんですけれども、各商店街の持つ特徴を生かすとともに、となっているんですけど、商店街を含めた全体のまちづくりをどのように進めるか、その中で商店街の位置づけというか、そして新たな消費ニーズを喚起していくことが非常に大切なのではないかと考えています。

### 3 協議事項(1)「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性」について

#### ②歴史・文化、スポーツ

○越宗会長 はい、ありがとうございます。全委員さんからご意見をお出ししていただき

ました。それでは続きまして、2の歴史・文化、スポーツのところに入りたいと思います。私、ちょっと述べさせていただきたいと思いますが、歴史・文化という部分では、岡山は非常に歴史資産にも恵まれておりますし、カルチャーゾーンに代表されるような美術館・博物館の集積は他都市に比べてもかなり充実しているんじゃないかと思いますが、資料で指摘されておりますように、施設利用者、利用人数がどうも相対的に少ないというのが大きな課題であろうと思います。

やはりもちろん情報を発信していくことも大事なんですけども、まずはやはり市民自身ももっとこういうものを活用して、価値というものをもっともって認識してほしいと思いますが、そのためにはやはり教育の問題と申しますか、小学生の頃から郷土の歴史資産についてよく知って、郷土愛を養っていく。あるいは歴史・文化にもっともって子どもの頃から触れる機会というのを増やしていく、そういうことが足りないのではないかと思うわけでありまして。身近に優れた美術館等がありますので、もったいないということでもありますから、これは小中学生だけでなく、大学生がそういうところを利用する数も少ないと美術館関係者は申しておりますけども、これはやはり高等教育も含めて美術館や博物館での研修のカリキュラムを工夫をしてもらおうとか、いろんな方面からちょっとそういう部分を強化していったらどうかと思います。来年は、岡山市では国際現代芸術祭、それから続いております瀬戸内国際芸術祭がありますし、岡山市のイメージにスポットが当たるわけですから、こういう機会は広域振興の機会でもありますから、近隣自治体との連携もしっかり強めていただきたいと思います。

スポーツですが、資料にありますように来年度は高校総体、それから2年後ですが、2018年に全国中学校体育大会という大きな大会が岡山で開催される予定でございます。若い人に岡山市の知名度や好感度を上げていく絶好の機会でございます。受け入れ等、おもてなし等、万全を期してほしいと思います。先ほど名前の問題がございましたけども、スタジアムやアリーナ、総合グラウンドですね。これは岡山駅から歩いて行ける距離にある。そういう点では全国でも抜群の立地条件を備えているわけでもありますから、しかもサッカーのファジアーノ岡山、バレーボールの岡山シーガルズがホームタウンにしているわけですから、地元の商店街、奉還町商店街等ともっともっと連携しながら、岡山駅からグラウンドにかけての応援ロードを、もっともっていろんな工夫をして活性化をしていただきたいと思うんですが、梶谷さん、いかがですか。

○梶谷委員 ありがとうございます。スポーツというのは地域の求心力にもなるし、世界への発信力にもなるということで、それをどう普及していくかというのは非常に大事だなと思います。一つは大規模なスポーツ大会を誘致されてきておりますし、そういったことが定期的に行けるといっていいことと、もう一つ私は、オリンピックで事前合宿の誘致という話もありますけれども、それがオリンピックを目指したのではあまり意味がない。そうではなくて岡山が常に全国の、例えば中高生の合宿のメッカになる。というのはトップチーム

があるから、そういう方と一緒に練習ができる。常にトップチームが合宿に来るとなると、ある意味、合宿のメッカになってくるのではないか。そういった人が岡山の文化に触れて、今度は大きくなったら家族を連れてまた岡山に遊びに来る。そういうふうなところにつながればいいなと思っています。

そういった意味でいうと、やはりスポーツ大会や合宿を誘致したり、全体のコントロールをするためにも、スポーツコミッションとか、先ほどのコンベンションの窓口のことを申しましたけれども、こういったものを窓口として施設を一体的に管理したり、いろんなサポートをすることができる組織の立ち上げ、そこがいろんな施設とか合宿とかスポーツ大会の時に必要になる、アフターコンベンションの時の会場の手配までやれるような、そんなことをぜひ早急に立ち上げて、世界に打って出るべきではないかなと思います。

それともう一つは、改めていろんな箱モノというのもどうかということもありますけども、ある意味、箱モノは独立採算ができるような形での、多機能で大型の施設というもので、本当にいま足りているのか足りていないのかということも踏まえながら、周辺圏域との連携を進めていくことが必要だろうなと思っています。恐らくスポーツだけでなく、スポーツと文化というのは相性がいいと思いますし、観光とも相性がいいので、そういったところとどうつなげていくかが大事だと思います。

それから先ほどの文化のところで市民が中々観ないということではありますが、改めて企業経営者からすると、観る時間を作っているのかなと。やはり一度帰るとまた観に来るのは大変だとすると、就業のあとに観に行ったりとか、触れる時間をどう作っていくかということが、一つあるのではないかなということを感じています。それから岡山はいろんな施設があるんですが、それをどう発信するかというと、いろんなものがあるがゆえにそれぞれがバラバラで発信していて、中々全体として岡山はこんなところだよ、岡山にはこんな文化があるよということを発信する場が意外とないんですね。せっかくシティミュージアムがありますが、あそこも常設展はありますが、企画展は、学芸員がいろんな企画をして岡山のものを発信するというよりは、ほとんどよそから持ってきた企画物をやるほうが多いような気がして、せっかくあるのだから、あの中でもっと岡山のことを市民とかと一緒にやりながら発掘したものを、あの場で発信していく。そうするとコンベンションで来た人に、ぜひここに行ってよということ観てもらおう。そういった循環ができてくれればいいんじゃないかなと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○杉山委員 先ほど、「桃太郎」、「きびだんご」を何とか上手く活用したらよいのではないかということをお話ししましたが、ブランド論を専門としている者からすると、「桃太郎」や「きびだんご」にどれくらいの価値があるのかというのは興味のあるところです。一般的に全国的に知名度のあるブランドの場合、最低でも1,000億くらいの価値があ

ると言われています。つまり岡山だけとか、大阪とか広島だけではなく、全国区でちゃんと名前が通っていることは、それだけ価値があるということです。レクサスというトヨタが展開している高級戦略ブランドが大体4,000億くらいの価値があると推定されています。来年上場予定の企業も恐らく1,000億を超えるでしょう。だから「桃太郎」、「きびだんご」にはそれだけの価値があります。その価値を岡山市や岡山県の人には本当に分かっているのかというと、恐らくあまり考えてもいないのではないのでしょうか。要は何を核にして、何をシンボルにして、どのように岡山市の魅力を情報発信し、強い岡山市を作るかということが大切なのです。あれもこれもやるというのはなかなか難しいと思います。

二番目に、長く岡山にいないで帰ってきてびっくりしたのですが、オリエント美術館も、それから市立美術館も本当に素晴らしいところです。でもやはり街づくりに課題があるように思います。伊勢神宮は恐らく赤福さんがああいう飲食施設を作らなくても、ひょっとすると観光客がいっぱい来るかもしれません。しかし、やはり観光地に行くと飲食などがどうしても必要なんです。だから最近の、例えばヴィトンとかの大きなフラッグショップができていますが、必ず中にカフェとか飲食を入れています。なので、今更既存のカルチャーゾーンを大きく作り直すことはできないのですが、市民ホールについては、箱モノだけではなくて、飲食を含めた賑わいを作るということをぜひコンセプトに入れながら展開していただきたいと思います。箱モノだけどやはりさつき梶谷さんがおっしゃったように1回きりであまりリピートで行かなくなってしまう可能性が高いと思います。

それから最後に、これは私自身の反省も含めてなのですが、岡山ってすごい人たちが出ている地域なのです。アサヒビール、キリンビールを作ったのは岡山の人です。それから栄西は臨済宗をつくり、抹茶を日本に持ち帰りました。日応寺のように彼が修業したところなんかもちょうど残っています。この人たちをいったいどう地域の子どもたちに教えるかは大きな課題です。実は大学の学生たちに教えると反応は非常によくありません。小学校くらいから地域のことを教えないとだめなのではと思います。

先ほど申し上げたコンセプトを何か一つ作って、それに向かってすべてを発信するというので、仮にヘルスケアということであれば、やはり津山洋学の緒方洪庵の師匠である宇田川玄真とか、東大の医学部の初代の教授だった箕作阮甫とか、そういう方をちゃんと中心において、ヘルスケアということ岡山はすごいんだぞというように上手くまとめて情報発信をしていかないと、やはりバラバラで発信すると全国的に届かないだろうと思います。吉備王国が滅ぼされたというのは日本の歴史にとって最大の事件の一つで、そのために「桃太郎」の伝説が残っているのだらうと思います。何かのキーワードで一つ貫くということは戦力上非常に重要です。ぜひ検討していただきたいと思います。

○越宗会長 はい、ほかにございませつか。

○泉副会長 梶谷さんの意見に大賛成で、3ページのところにスポーツ大会の誘致体制と

施設の整備とありますが、施設の整備を行う際に、ドイツやスイスの例をぜひ参考にしていただいて、結局、ペイするような施設でないかと長続きしないんですよ。鳥取とか大分の失敗事例もありますから、そういうことも踏まえながら、はっきりいうとペイする施設を民間と一緒に作られたらどうかと思います。以上です。

### 3 協議事項（1）「政策分野別の現状と課題・長期的な方向性」について

#### ③都市経営

○越宗会長 ほかにはございませんか。よろしいですか。それでは続きまして第3の都市経営の分野について、どうぞ意見をおっしゃっていただきたいと思います。阿部宏史委員。

○阿部宏史委員 先ほど資料でご説明いただいたように、いろんな面でかなり行政改革をそれなりに頑張っておられるなという気がいたします。ただ、やはり、これからいろいろな施設の更新の件、そういったこととか、人口減少・高齢化ということを見ると、いままでになような状況に直面していくのではないかと思います。そういった意味で、財政面の長期的な視点に立った持続可能性を改めて問い直す必要があるのではないかなという気がいたします。

○越宗会長 はい。ありがとうございます。やはり、いろいろと社会保障関連経費も増えるし、いろんな問題があり、そういう中では、表現にもございますが、選択と集中が必要であって、思い切った公共施設の統廃合というのでも断行せざるを得ないんじゃないかと思えますし、同時に先ほども他の分野でも申しましたけども、近隣市町村との連携というものを強化して、同じ圏域での役割分担というものを本気で考えていかないといけないのではないかなと思います。

それから職員数の問題なんですけども、他の政令市と比べまして部門別の職員数で、やはり少し他都市に比べると手厚い人員になっている部分、保育所・幼稚園、農林水産、水道と、このあたり、もちろんいろいろあるんでしょうけども、やはり他都市との比較で多いのであれば、削減の余地があるのかなのか、もう一度きっちりと点検していく必要があるのではないかと感じました。ほかに、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○梶谷委員 アの丸の二番目に官民の役割分担、既成の枠組みの見直しとありますが、これを具体的にどうやっていくのかということが問われているんじゃないかなということを感じます。いままでこれは官がやることだと思っていたことを、いかに民がやれるものは民にしていくのか、その辺りがあるだろうと思えますし、逆に民に移すということになると、いろんな市の計画だとか、いろんな施策を民とか大学とかと一緒にしながら作っていく、計画段階からいろんな主体が参画しながら合意形成をしていく。そして、それぞれが責任を持って実行していくというような行政のやり方そのものを変えていく必要性があ



るのではないかなということを感じております。

それから、県や周辺市町村との役割分担、連携も行政だけで連携していく考えなのか、そこに大学や民も絡みながらどう連携をしていくのかを組み立てていくのか、この辺りによってもかなり大きく変わるのかなということを感じました。いま地方創生が大きなテーマだと思えますけれども、人口減少の中で、どうそれぞれの地域が地域間競争で生き残っていけるか、よりよい地域にしていくかというのは、どれだけそこに住む人とか企業や大学が一緒になって、この課題を共有して取り組めるかにかかっていると思えますので、そういう意味でいうと、いかに関係するところを巻き込む仕掛けを行政側がやっていけるかということも、もっともっと工夫をしていく必要があると感じます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。そのほかご意見ないでしょうか。はい、どうぞ。

○杉山委員 市の女性の管理職については、ちゃんと数値目標を作ると明言されていらっしゃいますので、釈迦に説法かもわからないですけども、やはり岡山市が6.4%というのは恥ずべき状況で、ちゃんとこれを政令指定都市では10年以内にトップグループにするとか、そういうことはぜひ考えていただきたいと思えます。やはり多様性を入れ、いろんな価値観を入れることによって変化が起きてくると思えます。ぜひ女性の活用を進めていただいて、新しい行政のあり方を作り出していきたい。女性中心で企画ができるような、そういう市になっていただきたいと思えます。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。

○泉副会長 前回のお話のように、重点化しないとお金もたないということがあって、一度市長さんのほうから、この審議会でも基金についてどうするかという議論もぜひお願いしたいというご発言がありましたけど、私も数字の実感がないんですが、2ページの基金残高比率に関しておっしゃられていると思うんですが、いま現在、収入に対して12%くらいの備えがあります。したがって財政状態も政令指定都市の中では悪いほうじゃないという、そんなイメージだと思います。この比率を5%~12%くらいの間で切り崩していかないと重点投資ができないと思えます。安全・安心の中の、優先課題が何かというのが、実は私は素人なもので、行政的な安全・安心のための重点課題の順序がどうかということが分かりませんので、それはプロとして十分ご検討いただいて、基金は若干であっても取り崩す方向でも仕方ないんじゃないかというふうに思います。以上です。

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかにはございませんか。はい、どうぞ。

○阿部典子委員 岡山市行財政改革推進方針の策定ということで、今後もずっと改革を続けていってほしいと思います。同時に、市役所を動かしている職員の方々の、そんなことはないと思うんですけども、親方日の丸的な考え方ではなくて、シビルサーバントという考え方でやっていただいたらありがたいなと思っております。

### 3 協議事項（2）その他

○越宗会長 はい、ありがとうございます。ほかにはございませんか。それでは本日の協議事項、以上で終わりたいと思いますが、協議事項の（2）にその他がございますが、事務局からどうぞ。

○事務局（門田） はい、失礼いたします。次回以降、これまでの各分野別の現状と課題・長期的な方向性のご議論、それから市民の皆様からいただいたご意見などを踏まえまして、11月下旬の答申に向けまして、岡山市のまちづくりの基本理念や目指すべき将来都市像など長期構想に盛り込むべき内容について、ご議論をいただきたいと考えております。開催日程につきましては、すでにご案内しているかと思いますが、第6回は10月19日の14時から、第7回は11月6日金曜日の10時から、第8回は11月16日月曜日の10時からを予定しております。ご都合の合わない委員の方には大変恐縮ですが、何卒ご了承くださいませよう、お願いいたします。

○越宗会長 ただいまご説明がありましたけれども、次回から3回にわたりまして、11月下旬の答申に向けての審議を行ってまいりたいと思います。委員の皆さまには、いろいろとご都合がございませうが、ご出席いただきますよう、よろしく願いいたします。これで本日の審議、議事終了になりましたが、最後に大森市長から。

○大森市長 今日はどうもありがとうございました。いろんなご意見をありがとうございました。その中で、少し私も触れさせていただきたいと思いますが、一つは選択と集中ということもありましたし、農業とか観光を県と一緒にやるべきではないかという話もありました。そういう面で、県との役割分担、特に政令市というのは非常に難しいところがございます。記憶も新しいところでは、大阪市の橋下市長が大阪都構想を出したわけであり、あれも大阪府の体育館と大阪市の体育館の2つが併存しているということもあり、また、産業行政がバラバラでやっているということもあり、そして大阪市の権能を大阪府全体で一括処理しようということをやったわけですが、ベクトルが逆じゃないかということもあって最終的には否決されたわけであります。

私も、市長になって2年間、この二重行政的なものについては随分痛感しております。多分これは県のほうも同じなのではないかと思っております。政令指定都市、20都市でもこの議論というのは随分やっております。大阪市は別ですけども、他の市は基本的に市のほうが

一括して担うべきではないかと、特別自治市構想を持って、基本的に私もそれに賛成をしているところでもあります。ただ、これは制度論でありますから、国会で法律が通らないと、そういう特別自治市にはならないわけでありまして、私は現実的に一つひとつ法律的な話を、体制を組んでいくべきではないかと思っているわけでもあります。一つが先に例に挙げられました後樂園と岡山城、私は本当に上手くいったのではないかと思います。後樂園のほうも単に城とイベントを一緒にするというだけでなく、あれ以来、例えば今年もマッピングがあったり、それからバーの開設みたいなのもあります。岡山城も現代アートをやってみたり、天守閣の上で会議をやってケータリングで食事をするということも出てきているわけでありまして、お互いが一つの組織のもとで切磋琢磨する。非常にいい形になっているんじゃないかなと思います。そのほかにも、今年の11月のおかやまマラソン、あとは空港南の企業団地、ちょっと目立ちにくいですけども、これもフィフティフィフティと一緒にやると。そういうことが今の制度下においては現実的な整理ではないのかなというように思うわけでもあります。

これから例えば、先ほどの文化施設の話、オリエント美術館は市だし、県立美術館は県だとか、総合運動公園は県だけど、うんぬんかんぬんがあつて、県の施設の役割というのは県全体の中のシンボリックな役割ということで、少し市の施設とは役割が違うところはあるんですけども、相互に関連しているという面では同じなので、どういう現実的な対応が取れるのかということ、私としてもぜひ考えてみたいなと思っているところがございます。そういう意味では、いろいろとしたサポート、また、具体的にこういったことをすればいいんじゃないかというお話があれば、ぜひお聞かせをいただきたいなと思っております。

あと、各論として一つ桃太郎の話が出たので、ちょっと桃太郎について。実はですね、この前、観光案内の女性の方々と話をする機会があったんですが、桃太郎グッズというのが岡山には無い。桃太郎のキーホルダー、桃太郎のうんぬん、あまり皆さんも持っておられない。観光客も買おうと思っても買えない。最近、旅行雑誌の最初に出てくるフルーツパフェ。フルーツパフェもいろんなところで売っていますけども、午後2時以降じゃないとフルーツパフェ食べられない。昼はランチが隆盛になっている。いわば岡山の売りが必ずしも、杉山先生がおっしゃるようにみんなであの手この手で桃太郎ということになっていないことが事実のような気がいたします。そういった形で、私も1,000億かどうか分かりませんが、大きな価値を桃太郎は持っているのではないかと思っているところがございます。知恵を出していきたいと思っております。

そのほか、さまざまな貴重なご指摘をいただいているんですが、次回から具体的な案をここでお示しをしてお議論いただきたいと思っております。皆さま方のご指摘がきちんと入っているかどうか、それからもっと具体的なアイデアがやはり要るんじゃないか。具体的な指数、KPI指数と呼んでいますけど、そういう重要な評価指数みたいなものも出していきますので、ぜひこれからご指摘、ご批判をしていただきながら、11月の議会から我々も

素案を出していきたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○事務局（植月） これを持ちまして本日の平成27年度第5回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆さま、お疲れさまでございました。

閉会